

長崎市・セントポール市姉妹都市提携60周年記念訪問所感

(佐藤正洋)

セントポール市との姉妹都市60周年記念の訪問団として、市議会議長をはじめ市議会から5名が訪問いたしました。また、長崎商工会議所会頭・副会頭など役員の方々とも同行することが出来ました。

このことは、普段なかなか直接お話しする機会が少ない皆様方ばかりなので大変有意義な視察になりました。

セントポール市は、人口285,000人の都市ですが、ミネアポリス市と隣接しており、活気に満ちたアメリカ独特の緑の多い街並みが整備された都市である。大リーグ(MLB)ミネソタ・ツインズや北米独立リーグのセントポール・セインツがあり、地元球団を熱心に応援している状況を肌で強く感じる事が出来た。また、天然芝で立派に整備された専用球場でのセインツの試合では毎熊政直議長が始球式を行い、地元ファンに大きな拍手を受け、記憶に残る印象深い視察になった。

アイスホッケー場も整備されており、地元チームの活躍にあいまって多くのファンが観戦し、毎試合満員(2万人)で活況を呈しているということである。

また、プロバスケットボールのチームも有名でスポーツが非常に盛んな都市であることも実感できた。

平和公園のモニュメント「地球星座」の設置に尽力された第50代セントポール市長 ジェームズ シャイベル氏に国際親善平和栄誉賞を田上市長から贈呈されたが、以前から平和に関して高い意識を持っておられることを感じた。

夕食会や昼食会では、太鼓の演奏や長崎訪問時のビデオが流されたり、丸山の芸子さん方の演奏・舞踊が披露され大きな関心呼んだ。また、訪問団は各々別のテーブルに配置されるなど地元の皆さんとの交流を深めることが出来、印象深いものになった。

ピースパイプセレモニーが市長出席のもと市役所のビジョンオブピース像の前で行われたが、平和のパイプの回し飲みなどの儀式が厳粛な中で執り行われ、その意義の重さを感じた。

広島・長崎原爆展が姉妹都市60周年にちなみセントポール市で開かれることになり、開会セレモニーが多く関係者が出席され盛大に開会されたが、展示物を熱心に見入る多くの人たちで満員の状況が続き関心の高さを実感した。

姉妹都市交流貢献者顕彰式典は、厳粛な中に執り行われ歴代の市長などに追悼の祈りをささげた。

コモ公園で開催された日本祭りでは、長崎からの一般訪問団の中学生や3・4世の皆様による盆踊りなどが披露された。多くのテントが張られ、日本風露

店が立ち並び焼肉など多くの飲食コーナーがあったが、アルコールの販売はされていなかったのは日本との違いを感じた。日本の切り絵・書・手芸物などが出品され、買い物客が列をなしていた。

ステージの最後は、丸山芸子による舞踊・長崎ぶらぶら節で大いに盛り上がり、もってこいの掛け声で最高潮に達した。

また、芸子の鬢姿は注目の的で多くの3・4世の人たちが写真に納まっているのが印象的であった。

日本庭園の松田正美記念碑の除幕式もあり、松田氏のご子息親子の方も出席され、最後には石灯籠に火がともされるとともに、池にも提灯が浮かべられ日本風の雰囲気醸し出していた。

今回の訪問では、長崎市とセントポール市の姉妹都市60周年という永い歴史を感じるとともに、戦後の復興と平和にいち早く取り組んだことが今の繁栄の一助になっているものと強く感じた。